

# 事務執行状況点検評価報告書

平成23年度事務事業分

紀美野町教育委員会

はじめに

紀美野町教育委員会では、本町長期総合計画において、“豊かな教育をめざすまちづくり”を支える柱に、「学校教育を充実し、次世代を育てる」と「文化・スポーツ活動を通して社会教育を振興する」を掲げ、それぞれ具体的な事務事業に取り組んでいる。

これらの事務事業を推進するに当たり、随時点検評価を行い、その結果に関し、報告書を作成した。

平成23年度に実施した事業について次のとおり点検・評価を行い、その結果を報告書にまとめた。

平成24年 9月

紀美野町教育委員会

## 点検・評価等について

### I. 実施根拠

点検・評価の実施については、教育委員会の責任の明確化や体制の充実等を図るべく、紀美野町教育委員会評価等実施要綱に基づき実施した。

### II. 評価等の対象

評価の対象は総合計画に基づいて、前年度に実施した事業のうち主なものについて評価をいただいた。

### III. 点検、評価の方法

点検及び評価に際し、必要性、効率性、有効性、公平性等の観点から分析し、それぞれの項目別に5段階評価する「5:的確」「4:良好」「3:妥当」「2:要検討」「1:要改善」で表した。評価の今後の方向性として「廃止」「見直し」「休止」「継続」「拡大」の5つの方向性で示した。評価の客観性を確保するため、教育委員会評価委員会を設け、外部の立場から評価方法や観点などについてご意見ご助言をいただいた。

弓庭 武彦

評価委員の委員氏名

松本 守信

津田 修吾

#### IV. 評価等の結果

教育委員会の総合評価の結果は、次のとおりである。

##### (1) 評価の判定別事務事業数

評 価	5	的 確	十分に成果を発揮している	2
	4	良 好	ほぼ成果を発揮している	39
	3	妥 当	おおむね成果が上がっている	4
	2	要検討	成果が上がっているとは言えず要検討	1
	1	要改善	成果がほとんど上がっておらず見直しが必要	0

##### (2) 今後の方向性別事務事業数

方 向	廃止	見直し	休 止	継 続	拡 大
事業数	1	0	1	43	1

#### V. まとめ

今後の事務事業について、事務事業の目的、必要性等を踏まえ、常に問題意識を持って事務事業の遂行に当たる必要がある。児童数・生徒数が減少する中で、学校の教育環境の充実に努める。また、厳しい経済状況が続く中、行財政改革により財政の健全化が求められているが、今後実施される事業の優先度や緊急度等を勘案し、計画的、重点的な事業実施に努める必要がある。

# 点検評価結果

## 1. 教育委員会事業

目的：教育行政について審議をはかり教育行政の具体的な施策推進を図る。

内容：教育委員会の委員の構成は、性別では男性 4 名、女性 1 名となっている。

教育委員会の開催・学校訪問、実態研修会情報交換会等の参加。町内小中学校の各研究会に参加し成果の状況確認をする。

委員 1 名が任期満了となり再任された。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：町内小中学校並びに社会教育活動の中で、特色ある行事および研究会等には積極的に出席又は参加されるよう期待します。また、教育委員会の開催頻度については月 1 回の定例会開催を目標にするべきであると思います。今日教育委員会制度の在り方が問われている中で、本町としても委員会がよりいっそう効果的に機能できるようにする必要があります。そのため、委員の構成の弾力的運用や任務の在り方についても検討を要すると思われます。また、教育委員の活動および成果について、可能な範囲で発信していただければと思います。

課題・方向性：委員会への上程内容及び委員の日程等を調整し、必要に応じて委員会を開催する。また、学校訪問、各学校行事等への参加を企画する。

## 2. ALT 設置事業

目的：中学校・小学校で英語を教え、地域住民との交流を深めることにより、外国語教育の充実と地域の国際交流の進展を図る。

内容：中学校における外国語教育の補助、小学校における国際理解教育の補助など

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：限られた採用条件の中で各小・中学校の英語教育の補助として成果を上げられています。しかし、今日コミュニケーション能力を高めることが求められている中、JET の事業範囲だけでは充実したものにはなりにくいので、可能な範囲で課外活動など子どもたちとともに交流できるようにしていただきたいと思います。そのため、現在の 2 名体制では対応が難しいように思われます。JET を通じた採用でなく、自前の ALT 採用は検討できないでしょうか。

課題・方向性：JET を通じて採用した場合、最長で 5 年しか任用することができない。

優秀な人材を当方で選定することができない

小学校での授業数が増えれば、現在の 2 名体制で対応できるか、ALT の配置及び活動内容を検討していく。

## 3. 適応指導事業（不登校児童）

目的：不登校等の児童生徒並びにその保護者に対する教育相談による支援と、引きこもりからの改善途上にある別室登校の児童生徒の学習支援を図る。

内容：県教育委員会より野上中学校並びに美里中学校へスクールカウンセラー1名が配置され、年間44日の教育相談日を設けた。教育相談は保護者並びに学級担任等に対する間接的なものと、別室登校生徒への直接的なカウンセリングを実施している。また、国の交付金措置による学校教育支援員を4小中学校に配置し、そのうち3小中学校では、別室登校児童生徒に対する個別的な学習保障として活用した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：本事業によって不登校の児童生徒の数が減っていることは好ましい傾向であると思います。

また学級担任にとって、スクールカウンセラーや学校教育支援員の存在は大変心強く、大きな役割を果たしていると思います。反面、不登校の原因が「いじめ」「虐待」ではないかどうかについては、充分調査を徹底することが大事であると思います。減少したとはいえ、本事業の目的は不登校、別室登校の解消にあることを忘れずに今後とも取り組みをお願いします。

課題・方向性：スクールカウンセラー配置に係る国の補助金が削減され、スクールカウンセラーの教育相談日・時間が減少傾向にある。また、これまでの事例によると、不登校等のきっかけとなる気質は小学校の段階で表れている。町内小学校の保護者からの相談依頼が少なく、小学校の保護者への啓発を保護者会 PTA 活動などを通し積極的に図る。また、学校教育支援員の活用面では、資質の向上を図るための研修等の実施に県教育委員会をはじめ、近隣市町教育委員会と共同での実施等を働きかけていく必要がある。

#### 4. 研究指定校事業

目的：学校全体及び教師による教科・総合・道徳・特別活動の指導方法や効果の向上を図る。

内容：県「学力向上推進事業」の主旨に基づき、本町では、野上小学校・下神野小学校及び野上中学校・美里中学校で指定を受け、授業改善・補充学習への手立てについて、教職員全体で実践していくシステムづくりに取り組んだ。これらの研究実践を支援するために、各校4万円の補助金を計上した。野上中学校での実践報告書は、県ホームページに紹介されている。

判定： 3 今後の方向性：継続

評価委員の意見：県の「学力向上推進事業」の指定を受けて、本町では4校で授業改善・補充学習に取り組まれて成果を上げて来られました。さらに、少人数学校の良さを生かし、県編集の国語力向上のテキストなどを使って、より個々の児童生徒の学力に即した指導を図っていただきたいと思います。町から経費面での補助で支援を継続していただいていることは心強いです。

課題・方向性：補充的な学習や発展的な学習、特別支援を要する子どもへの配慮を視点とした授業改善を図る取り組みを中心に「指定研究」として県の認可を受け、町事業補助金を活用して研究の充実を推進する戦略を続けていく。

#### 5. 学校施設整備事業

目的：児童生徒はじめ、教職員等が最適な学校環境の中で生活を送れるよう、各学校施設の

損傷個所や危険個所等の改修、修復等を行う。

内容：各小中学校施設の施設機器、教室等の改修、修繕を実施した。

主な整備事業として、美里中学校の屋内運動場の外壁及び屋根の防水工事を、又毛原小学校の移転の為、長谷毛原中学校の校舎改修工事を実施した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：大地震等の発生に備え、校舎及び屋内運動場の改修、修復事業に多額の町費を投入されており、加えて中学校給食開始に向けて施設整備に取り組まれている事等に敬意を表します。

さらに児童生徒の安全が確保され、安心して学習できる環境の整備を望みます。  
なお町内の休校施設の活用について、旧真国小学校の「りら専修高等学校」や旧国吉中学校の「慶風通信制高等学校」等のすばらしい事績もあることですので、町が一体となって取り組まれるようお願いいたします。

課題・方向性：大地震等の発生に備え、校舎及び屋内運動場の天井、照明器具等の非構造部材の地震対策が必要な為、H24年度においては、校舎等に設置されている棚等の転倒防止対策を実施する予定である。

また、中学校給食開始に向け、給食の搬出先（下神野小学校）と搬入先（美里中学校・野上中学校）の改修を行う。

今後、各学校施設は、年数の経過に伴い、設備改修、修繕の増加が予想される中、学校現場と共に知恵を出し合い、対策を講じていく。さらに、児童生徒の減少が進む中、今後の学校の在り方を検討し、現在の休校施設の維持管理及び活用方法を学校・地元・教育委員会が一体となり、利用方法等について協議する必要性がある。

## 6. 職場体験

目的：中学生が、それまでに培ってきた勤労観・職業観を、体験により確かなものとして実感させ、社会人・職業人として自立していく力を身につけさせる。

内容：地域の事業所において3日間の職業体験を行いながら、社会のしくみや大人として身に付けなければならない知識・態度や礼儀・マナーを学び、社会の一員として自分を生かすための目標を見出す。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：職業体験を通して社会の中で、人間として真っ当に生きる為の教育を実践することは誠に有益な事業であると考えます。3日間という限られた時間の中で、より実績を上げる為には事前学習が重要課題であると思います。また、本町ではやむを得ない状況ですが、「キャリア教育」の充実のためには、個々の生徒が希望する職種と受け入れる企業等の実態にギャップがあるところが課題であると思います。

課題・方向性：特別活動・総合的な学習の時間として、各中学校では職業体験が定着している。傷害保険は学校保健安全会を適応、また、自賠責保険は、町教育予算で対応することで体験活動を支援している。生徒が、働くことへの理解や社会との関連をとらえる機会であるだけでなく、各学校は、児童生徒が人生設計を考え、将来への展望をもって教育活動への目的意識を高めていく『キャリア教育』の展開が課題となっている。

不登校や二ートの課題に対して、文部科学省では、小学生段階からのキャリア形成指

導を推進している。当地域においても、現存する共育コミュニティ事業のネットワークなどによる多面的な支援体制を基盤として、キャリア教育に関連付けた学習活動を教材化することが課題である。

## 7. 就学援助事業

目的：児童生徒の教育機会の均等を保障し、義務教育の円滑な実施を図る。

内容：教育委員会へ、学校を通じて保護者より申請書が提出され、審査の上認定を行う。認定された保護者に、学用品費等の就学上必要な経費の一部を援助支給する。また、児童生徒の修学旅行にかかる経費を援助支給する。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：教育の機会均等を保障するために、個々の就学援助申請を適切に処理されていることは好ましいと思います。今後ともその基盤となる生活保護の家庭の実態を細かに把握し、就学援助を判定されることを期待します。

課題・方向性：年々、認定件数・援助費は増加しているが適切な運用をしていきたい。

## 8. 青少年健全育成事業

目的：青少年の豊かな情操と優れた創造性・社会性を育て、地域社会全体で次世代を担う青少年の健全育成を図る。

内容：青少年の健全育成を目的とした各団体へ補助金を支出し、それぞれの育成事業を補助する。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：それぞれの立場で育成事業に努めていただいている諸団体が町民会議に参加することにより、全体として適正な補助金配分を実施されています。今後も関係機関・団体に中心となっていただき、学校・家庭・地域が連携して、町ぐるみで青少年を育ててゆくという意識を持って健全育成に努めていただきたいと思います。

課題・方向性：会員の減少、委員の高齢化による団体の弱体化が進む中、今後会員の勧誘等の推進を含め各団体の活動内容を点検し、継続的な活動ができるよう協議を行っていく。

## 9. 児童館利用事業

目的：児童に健全な遊びの場を与え、健康の増進、情操を豊かにする。

内容：児童に遊び場を提供して町内5箇所で（中央児童館（月曜日～土曜日）・小畑児童館・動木児童館・吉野児童館・吉見児童館（水曜日・土曜日））開館した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：子供たち同士で自由に遊ぶことが少なくなった現在、その中で各児童館を開館し、学年を問わず、児童生徒たちに健全な遊び場所を提供していただいていることは重要な取り組みであると思います。地区によって児童館のないところや、地区ごとに児童数の偏りがあるので、その子どもたちへのサポートを考えていく必要があると思います。

課題・方向性：子どもが減少する中でより良い環境づくりに努める。

## 10. 学童保育

目的：児童の放課後の生活を保護者に代わって安全に過ごさせることであり、保護者の代わりに家庭的機能の補充をしながら、「生活」の場を提供し、「遊び」及び「生活」を通して子どもの健全育成を図る。

内容：放課後の児童を保護者に代わって「勉強」「遊び」を教えて、自宅と同様な場を提供している。町内2箇所（野上学童・下神野学童）について、祝日を除き（月）～（金）まで開所した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：核家族、共働きの家庭が多くなる中で、放課後の居場所として児童を受け入れ、勉強・遊びなど、子どもたちの必要性に答えていることは好ましいことであると思います。家庭教育力が低下する中で、短い時間ですが今後とも指導員の皆さんの努力によって、子どもたちのマナー・挨拶・道徳・規範意識の向上を重点に取り組んでいただきたいと思います。

課題・方向性：入所希望者の対応拡大についても検討を行い、家庭の事情に応じて対応して行き、施設内での勉強、遊びの場の充実と野外での活動を今後多く取り入れる。

## 11. 夢づくり事業

目的：子どもたちの文化的な学習活動や地域の文化財産を活用した学習活動やそれに係る実践研究推進等、各学校の課題に応じた独自の教育実践及び実践研究を推進する。

内容：かなえたい夢や新しい自分を発見する機会を持つことで、子どもたちの挑戦する心を育成する各学校独自の取り組みに対し、必要経費の支出を各学校に委託する。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：各校で独自に事業を企画して行う場合、複数校が共同企画で事業を行う場合などが考えられ、学校の個性を発揮し実現させる意義のある事業です。経費支出を各校に委託していることで、各校のプロデュース力を発揮する事業として大いに成果を上げていていると思います。本物の芸術やその道の達人の話や技に直接触れ、自分の夢や目標に向かって前進する児童生徒が育ちつつあるのではないかと思います。継続と拡大を期待します。

課題・方向性：予算削減の傾向にある中、昨年に引き続き現状を維持できている。児童生徒の文化的な活動に加え、地域（ひと・もの）に関連した体験活動推進の活性剤となっている。町学校教育基本方針の柱の1つであり、その趣旨を効果的に反映できる各学校の取り組みを検証し、有効な運用を図る必要がある。

## 12. 学力体力判断力UP事業

目的：町学校教育推進の柱である「確かな学力」「確かな体力」「確かな判断力」の育成理念に基づく各学校の計画的・継続的な実践研究を支援する。

内容：知・徳・体の調和を図り心身ともに健全な児童生徒の育成を目指す各学校独自の取り組みに対し、必要経費の支出を各学校に委託する。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：経費支出を各校に委託することにより、各校がそれぞれ独自の方法で校風作りに取り組み、知育・体育・徳育を高める取り組みをされています。学力アップが重視される中で、「確かな学力」「確かな体力」「確かな判断力」の三つの柱は時宜を得ています。町の支援のもと、各校独自の工夫で、創意ある取り組みが期待できます。各校が特色を打ち出すための原動力であり、本町教育方針の大きな柱ですので、継続をお願いします。

課題・方向性：予算削減の傾向にある中で、本年度は現状を維持できた。平成27年度開催される和歌山国体までに、本町児童生徒の体力向上を全国レベル以上にする最優先目標を掲げ、各学校独自の実践を支援してきた。本町の教育水準を維持していくためには、先進的な実践に学ぶ必要性があり、研究発表会・学習会への教員派遣や外部講師の招聘を推進し、それを合同現職教育の機会を通して、町全体の教職員に還元していく方策が必要である。また、特別支援を要する児童生徒の増加に応じて、介助・個別支援等の人的補助への活用に対しても、本事業を適応していかなければならないが、県による非常勤講師の配置を要望して、可能な限り本事業での適応を抑えることが必要である。

### 13. 教材備品等の調達

目的：各教材及び図書等を整備し、児童生徒がよりよい環境の下で学習に励み学力の向上を図る。

内容：学校からの要望により図書及び教材等を整備する。本年度は印刷機を購入する学校が多くあったが、入札により定価の1/7程度になり、予定より安く購入することができ、他の教材備品を購入することができた。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：時代の趨勢に沿った機器・教材・図書購入に充てられており、学習環境の整備には欠かすことのできない事業だと思います。中でも、文章を読むことはすべての学力向上に通じることですので、図書の整備は欠かせないと思います。また、すでに整えられている電子黒板の活用など新しい機器を効果的に使い、より良い環境の下で学習効果を上げていただきたいと思います。

課題・方向性：学校の教材備品の整備については、要望等を精査し、必要性を考慮し整備を行っていく。

### 14. 通学バス運行事業

目的：学校の統廃合に伴う通学時間の短縮手段として各通学区域に運行を行う。

内容：通学バス6台（旧志賀野小区域・旧柴目長谷分校区域・旧真国小区域・旧上神野小区域・旧国吉小区域・旧長谷小区域）・マイクロバス1台（各学校の校外授業・各クラブ活動等）で運行を行っている。

車両管理、運行状態を確認する為、通学バス運転手会議を年1回開催し、又定期的に

各路線に乗車し、運転手、児童生徒の現況把握を実施している。

また、今年度2名の新規運転手が入り、運転手全体の安全意識、車両管理の質が向上している。

判定： 5 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：児童生徒数の減少傾向は益々続くと考えられますので、学校統合による本事業の必要性は言を俟たないところです。事業費の増加も重要課題であると思います。現状での運営が経費の面からやむを得ない状況であれば、安全運転の為に運転手教育にいっそうの配慮を望みます。

課題・方向性：・総括として当事業については、完全民間委託にした場合、現在事業費の2倍以上の経費が必要となる為、現行の中で更に広い視点での安全性の向上を目指す。

・車両管理・購入については今後、児童生徒数の推移を考慮し、必要に応じて、車両を更新していく。（車両購入については、国費補助等を活用する）

日常の車両管理については、定期的な指導、確認を行っていく。

・運転手については任期（70歳まで）に伴う新規運転手の確保を幅広く、早めの募集を行う。

#### 15. 町民一斉清掃事業

目的：子どもから大人まで、地域のみんなで力を合わせ、自分たちの町を自分たちの手で美しくする。

内容：毎年5月と10月の第3日曜日に行う。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：大人と子供が一緒に自分たちの住む町をきれいにする事は、当然のこととはいえよい事業であると思います。「環境問題」を身近に捉え、考えて、今後に生かすチャンスになります。しかし、その場限りとなってしまっ、後々ごみを見つけても拾わないとか、捨てても平気であるとか、汚くても関心を持たないようなことのないよう、計画的な「環境問題」として位置付ける必要があると思います。

課題・方向性：一斉清掃は毎年決まった日に実施されているが、地域により行事等に合わせ行われているところもあり、地域の人達が協力し町をきれいにする運動を継続的に進められるよう検討をしていく。

#### 16. 更生保護女性会

目的：保護司の協力機関として女性の特性を生かし、保護司の行う保護観察に協力して、更生保護思想を普及し、世論の啓発をもって地域の防犯に努める。

内容：町民の愛の協賛金のお願い・防犯ブザー配布・啓発資料作成・小中学校花時計及び公民館花植えなどの活動を行う。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：研修会や啓発活動を定期的に行っていただいております、その効果で地域の防犯意識が高まっています。旧美里地区での活動も年々会員も増え、その活動が各行事等を通じて目に見えるようになっております。殊に、防犯ブザーの配布、小・中学校の花時

計の植え替え、通学合宿のお世話など児童生徒たちも大変お世話になっています。今後とも引き続き活発な活動をお願いします。

課題・方向性：会員の高齢化に伴い、新規会員の勧誘等を図る。ミニ集会については今後地域のニーズに合った活動内容を検討していく。

#### 17. 子ども祭り

目的：子どもたちに体を動かしチャレンジする喜びと仲間とのふれあいの大切さを体験する。

内容：児童（317人が参加）が各コーナーに分かれてパン、もちつき、飛行機、布バッグ、マガタマ、スライムなどの作成とカラーリング、カプラ、チャレンジコーナーを行った。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：体験欠乏症とも言われる今の子どもたちにとって、多種の興味をひく遊びにチャレンジすることは、物事に対する新しい発見とともにやり遂げた喜びを味わえる絶好の機会であると思います。今後も制作的な遊びは出来るだけ子ども自身の手で作らせるよう配慮をお願いしたいと思います。

課題・方向性：子どもたちのニーズに合うよう、楽しく遊べ、チャレンジできる、コーナーの創設とみんなが参加しやすい祭りを考えていく。

#### 18. 校長会・教頭会

目的：町学校教育基本方針の重点目標「校風の樹立」の具現化及び県教育委員会との連絡調整を図る。

内容：事業実施にあたる留意点等の周知並びに各学校教育活動の見直しと改善をすすめるための情報交流を図る。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：校長会・教頭会が定期的に持たれていることは、町教育の目標の具現化に向けて欠かせないと思います。また、校長会・教頭会において、さまざまな指導伝達を受けることは、各校の教育実践を漏れなく確かなものにしていきます。また、開催ごとに当番校独自の教育実践が提起されることは、町全体の教育力アップにつながっていると思います。

課題・方向性：開催時期・主催は校長会・教頭会となっている。開催時期がそれぞれ独自に計画されているため、各課・センターの事業実施時期との調整は難しい。校長会は総務学事課・生涯学習課担当が毎回出席、教頭会は必要に応じて総務学事課担当が出席し、協議や指導を行っている。管理職のリーダーシップを支援できるよう当職から提示する内容に工夫を加えることで効果を高めていく必要がある。

#### 19. 特別支援学校通学補助

目的：障害のある児童生徒の特別支援学校への就学特殊事情にかんがみ、通学援助をするこ

とによって、保護者の負担軽減を図ることを目的とする。

内容：紀北支援学校通学者8名・和歌山ろう学校通学者1名 計9名の補助を行った。

判定： 4 今後の方向性： 廃止

評価委員の意見：国の補助内容と重複していたことについて、2年間に亘り当該保護者に慎重に事情説明されての廃止は致し方ありません

課題・方向性：特別支援学校通学補助については同様の補助を国が行っており、制度が重複するため平成23年度をもって規則を廃止することに決定した。

## 20. 緑育推進「元気な森の子」事業

目的：和歌山県の豊かな森林や林業について実際に体験することで、林業の現状や森林保全などについて学習する。

内容：県補助事業を受け、林業や森林について学習する。また、林業を行っている現地へ行き、実際に森林観察や間伐体験などを行う。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：木の国和歌山に育つ子どもたちにとって、本事業は故郷の自然を守り育てる上で絶好の機会です。学習はともすれば、机と椅子に固定させてのものになりやすいのですが、本町の児童は学校を飛び出し、現地に赴き、実際に森林観察や間伐体験を行っています。この事業は、林業の現状や森林保全の大切さを体得する貴重な学習となっていると思います。

課題・方向性：木材の加工など、林業の実体験は子どもたちにとって大変有意義な体験となっている。今後も環境資源の大切さを学び、環境問題に関心が持てるよう、継続的に実施していく。

## 21. 子ども見守り隊事業

目的：各小学校において、子どもが安心して登校できるようにボランティアで見守る活動を行っていただいている方々の活動をサポートする。

内容：地域関係者・学校関係者が、登校時に各地域で声かけを行い子どもの安全を見守った。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：子どもたちの朝の登校の様子を見守ったり、挨拶の声をかけたりすることは、子どもたちに安心感を与えるとともに、明るい一日をスタートすることにつながっていると思います。また、ボランティアの方がそれぞれの地域の子どもの様子を知ることにもなり、学校と連携して育てることにつながっていると思います。ただ、下校時に子どもたちが個々別々になることからその安全性が危惧されます。この取り組みも今後各校で工夫していただきたいと思います。

課題・方向性：地域の方々にボランティア活動への参加を呼びかけ、組織の充実を図り、下校時の見守り隊組織づくりを検討していく。

## 22. 補導・夜間補導事業

目的：紀美野町に住む子どもたちが不良行為や問題行動の段階で、子どもに対して適切な助言や指導を行い、非行を防止する。

内容：野上八幡宮祇園祭や、きみの夏祭り、夜店での補導その他にも、夏休み夜間補導5回子どもたちの集まりやすい場所を重点に補導活動を行う。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：過去この事業が定着していることもあり、問題となる事象が発生していないことは好ましいことであると思います。子どもたちの集まる場所も時とともに変化しています。今後も地域一体となった非行防止への取り組みをお願いします。

課題・方向性：地域や関係機関と協力し、非行防止への啓発活動を重点に行う。問題行動・不良行為など起こした子どもについては進学先、就職先の追跡を行って見守っていく。

## 23. 町誌編纂

目的：旧美里町の郷土について、文化遺産を記述し先人の遺跡資料とするものである。

内容：「史料編Ⅰ」に続く中世・近代と明治以降の現在史料として「史料編Ⅱ」と同解説書「美里むかしがたり」が完成、近隣の市町村と資料提供者に贈呈とともに購入希望者に販売。

判定： 3 今後の方向性： 休止

評価委員の意見：歴史を記録し保存することは大変意義のあることでありました。併せてこの事業の中で、町の文化財保存や歴史を見つめる活動を受け持っていた面もあったように思います。

課題・方向性：「資料編Ⅱ」が完成し、今回の作業を持って、美里町誌編纂事業を終了する。

### 1. 社会教育委員

目的：生涯学習の諸計画をたて推進を図る。

内容：社会教育委員会（10名）は「町づくりは人づくり」という理念を基に平成23年度「紀美野町生涯学習振興計画」をたて生涯学習の推進にあたった。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：生涯学習については社会教育委員会において大枠を審議いただいています。委員会に於いて、本町の実態に即応した「紀美野町生涯学習振興計画」を策定されて、文化面・スポーツ面・公民館活動等多彩な事業を実施され、大きな成果を上げていると思います。

課題・方向性：生涯学習の今後の展開について社会教育委員と共に計画を進めていく。

### 2. 町PTA連合会

目的：町内の園児、児童、生徒の安全と健全育成を願い連携と情報交換を行う。

内容：町内単位PTA及び保護者が協力して研修、講演会を開催する。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：保健福祉課管轄にある保育所と、教育委員会管轄にある小中学校は、形式的には接点が薄いものですが、本町のPTA連合会は全ての保育所と小中学校が加わっていることが特色です。この形を活用して、全町エリアを対象とした企画が可能となっています。「町内の園児・児童・生徒の安全と健全育成」を目標にかかげていることは重要であると思います。

課題・方向性：今後もより連携して活動を行う。

### 3. 文化祭

目的：地域に根ざした文化活動の推進と文化に親しみ学びの機会とする。

内容：住民一人ひとりの生涯学習への意欲を高めるため日頃の活動の成果を発表する場として中央公民館・文化センターにおいて実施した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：文化祭に向けて、各所の文化活動が活性化しています。このことは、参加しようとする住民の生きがいを生み出しています。また、町内の全学校（慶風、りらも含む）から作品が出展されるなど、一層の活性化が図られています。今後共支援をお願いしたいと思います。

課題・方向性：11月3日の文化の日を利用して開催していきたい。

#### 4. 文化協会展

目的：町内の文化団体相互の連絡を密にし、郷土文化の発展を図り、明るい町づくりに寄与する。

内容：23団体（会員数309人）が加入し、春の文化協会展、ふれあいステージの開催、研修を実施するなど文化性の高い町づくりに貢献した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：この文化協会展のおかげで、成果発表の機会が春にも設けられている事は、サークル活動者にとって励みになっていると思います。しかしながら、現状では文化祭ほど住民には知られていないようです。若年層の参加を促すためには、広報活動とともに、会員それぞれが個々によびかけることも大事であると思います。

課題・方向性：文化協会加入者の高齢化を防ぐ対策として、若年層の加入が必要である。

#### 5. 町民大学講座

目的：町民の教養と知識を高め、文化の向上を図る。

内容：6月水谷修「あした笑顔になあれ夜回り先生からのメッセージ」、8月板倉徹「認知症にならない生活習慣術」、11月茂山宗彦・逸平「狂言『寝音曲』」、12月アウトリーチ事業ふれあいクラシックコンサート、3月いっこく堂の人権トークショー「生きているだけでそれだけで」を開催した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：財政的な問題をクリアするために、現状は各団体が相乗りの形で開催されています。年間5回程度開催されていることは素晴らしいことであると思います。内容的に偏りなく企画されていることも、参加者を固定化しない上で重要な工夫であると思います。今後とも、アンケートなどを活用し、住民のニーズを参考に開催されるようにしていただきたいと思います。

課題・方向性：今後も住民のニーズに合った講師を招き講演会を実施していく。

#### 6. 公民館活動

目的：地域の生涯学習の核となる施設としてサークル活動の場として文化振興と住民相互の交流の場となるよう推奨していく。

内容：中央公民館、小川地区公民館、志賀野地区公民館の3公民館が、町民の生涯学習活動の実践をはじめ、文化活動の拠点としてその機能を発揮している。学習内容の多様化に伴い、公民館活動が盛んになり、年々サークル数が増え、夜間は部屋数が不足している現況であるが、学習の場、交流の場となっている。

また公民館が設置されていない地域では、世代交流センター、真国区民センター、集会所等を利用し活動できるよう関係機関と連携している。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：生涯学習の核となる施設として十分機能されていると思います。3公民館とも公民館活動が盛んになり、サークルの数が増えているそうですので、住民相互の交流の場、文化創造の広場、集団活動の拠点として大きな役割を果たしていると思います。

生涯学習で力を高めている人が、学校の授業にも参加して、教えながら共に過ごす企画を増やしていただきたいと思います。特に、学習指導要領の精神に鑑みて、茶道・書道等、日本の伝統的な文化に触れさせてあげたいと思います。公民館の図書の利用も大きく、数百冊もの本を読む児童が生まれていることは、人と場所と物がいかに大切かをうかがわせます。さらに、多くの子どもたちにも広がっていくように願っています。

課題・方向性：講座・サークル活動の場として集会所等も含め公民館が大いに活用されている。今後、新しい講座やサークルの育成と生き甲斐を見出せる場づくりが必要となる。

## 7. 花いっぱい運動花苗配布事業

目的：多様化する社会に対応するため、心の豊かさと親睦の輪を広げ「心ひとつに町づくり」を目標に取り組む。

内容：町内の道路や公共施設に各種団体を中心に花の植え付けや管理を委託した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：花苗配布事業を利用して公共施設への植え付けや、区長を通じて道路への植え付け、加えて学校と連携しての植え付けなど、各地区で環境美化に努められており、きれいな花壇を目にしてとても心が和みます。今後とも配布をしていただきたいと思います。

課題・方向性：管理協力団体の高齢化等により、植え替えすることのいらない植栽も視野に入れて検討が必要である。

## 8. 家庭教育

目的：多様化する社会環境の変化に対応するため家庭教育の推進を図る。

内容：就学前の児童を対象に福祉保健課、保育所、教育委員会の情報交換の場として「はぐくみ会」を定期的に行っている。家庭教育学級と称して、各部署と連携の基、保育所や紀美野町支援センターにおいて、親子のふれあいの場、子育て情報の交換の場として「絵本カレンダーづくり」、「カプラ教室」を行った。

判定： 3 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：就学前の子どもを持つ親に対しての「子育て教育」を目的とする事業です。「はぐくみ会」で保健福祉課、保育所との連携を図っておられます。保健福祉課からの指導や支援センターへの訪問は大きな心の支えとなっています。今後とも、日常的に育児について共に情報交換を行ったり、高齢者の方から助言などいただいたりできるように工夫していただきたいと思います。

課題・方向性：支援センターを拠点として、はぐくみ会と連携しながら推進していく。

## 9. 高齢者教育

目的：高齢化社会における生きがいつくりを重点に学習意欲を向上させる。

内容：地域サロン活動団体の活動の場づくりと世代間交流を目的として、ふれあいルームや中央公民館活動に参加している子どもたちと一緒にスポーツ、料理、手芸等のイベントに指導者として参加（参画）する場づくりを行った。

希望ヶ丘・福井サロンの皆さんを対象に講師を招き、カプラ体験教室（知育玩具）を開催した。参加者からは、少しの緊張感と作品の完成に歓喜の声が上がっていた。

判定： 3 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：保健福祉課管轄の地域サロン参加の高齢者の活動の場にもなっています。各地区それぞれに工夫した高齢者学級が持たれていることは、まさに生涯学習そのものと考えます。高齢化社会が進む中で、地域サロン教室などで学んだ成果を広く公開し、例えば高齢者展の開催等、多くの方の参加を呼びかけるようにしていただきたいと思えます。

課題・方向性：保健福祉課において地域での健康づくり、生きがいつくりに取り組んでいる「地域サロン活動」が定着化してきているため、今後も高齢者の参画できる場を設け学習意欲が増すように連携を図っていく。

#### 10. 児童・生徒絵画展示

目的：展示することにより子どもの制作意欲を高め子どもの励みとなる。また、作品の展示により潤いのある庁舎にする。

内容：町内各保育所・小学校、中学校の児童生徒の絵画を役場本庁・美里支所・中央公民館・文化センターにおいて4ヶ月毎に額装して展示を行った。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：児童生徒の絵画を役所等に年間2回程度の頻度で展示されていることは、他市町村では見られないユニークな事業であり、子どもたちの制作意欲を高め、保護者の励ましも受け、より優れたものにしようとする努力につながります。それが自信となり、他の学習意欲の喚起や学力向上に発展されることを期待します。

課題・方向性：好評を得ているので今後も実施していきたい。

#### 11. 人権教育事業

目的：人々は生まれながらにして固有する人権を護る精神にたつて差別や偏見を無くす活動を通し、明るい社会の実現に寄与する。人権尊重の精神に徹し、身近な生活における人権に対する感性を磨き、人権意識の高い町づくりを行う。

内容：関係の各行政機関、各種団体が連携した「紀美野町人権委員会」が中心となり各区会と協力し、紀美野町を4（東野上、小川、志賀野、美里）ブロックに分け地域別研修会を開催するなど啓発に努めた。

また、人権教育、啓発を総合的に理解し、各々のセクションでも主体的に発揮できるよう、議会議員、役場関係職員、町内企業・事業所・PTAを対象に研修を行った。啓発冊子男女共同参画基本計画を基に概要版「手をつなぎ共に支えあう美しい町きみの」の作成や人権パンフレットを保育所、小中学校、各種会議、地区懇談会等の際に配布し、研修資料とした。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：「紀美野町人権委員会」として、組織だって積極的に各ブロックで継続的に取り組まれています。昨今「人権問題」の定義する範囲はとて大きくなっており、子どもの虐待や高齢者の虐待、インターネット上での人権侵害、個人情報漏洩といった人権問題も増えてきています。各ブロックにおかれましても、時代の変化に則した啓発活動を工夫していただきたいと思います。町民大学講座においても、年1回は人権関係のテーマを設定されていることは大変結構であると思います。ただ、従来行われていた小ブロックでの研修の効果も忘れないようにしていただきたいと思います。

課題・方向性：仕事や家事で学習会や研修会に参加できない対象者への啓発のあり方や、企業・事業所に対しての人権教育・啓発の方法等気軽な参加を地域人権委員と共に検討し呼びかけ推進したい。

## 12. 放課後子ども教室推進事業

目的：子どもたちの放課後の安全・安心な活動拠点として、地域の協力を得て子ども達と共に勉強やスポーツ等に取り組み、心豊かで健やかに育む環境づくりを推進する。

内容：中央公民館と文化センターに「ふれあいルーム」を設置している。毎週水曜日には、絵本読み聞かせ、工作、スポーツなどミニイベントを行った。

学習活動を行い、放課後の子どもの居場所として取り組んだ。

町内小学校4年生以上を対象に中央公民館と自然体験世代交流センターで2泊3日の通学合宿を開催し、計43名の児童が参加した。児童たちは集団生活を通し、周りとの協力することや、家族に感謝することについて学び、地元の方やボランティアとの交流も深めることができた。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：①放課後子ども教室 ②通学合宿 の2つの大切な事業を行っておられます。①は、学童保育とは別に放課後の子どもたちの安全な居場所として重要な存在になっています。子どもたちはハンドベル教室に参加したり、図書室で宿題をしたりとそれぞれの過ごし方を見つけています。

②は、更生保護女性会の皆さんによるボランティア奉仕および大学生ボランティアのお力添えにより毎年実施されております。

いずれも子どもたちにとって大切な事業となっています。継続実施をお願いします。

課題・方向性：ふれあいルームについては、今後も子どもたちができるだけ参加しやすい環境を整え遊び学べる場を提供していく必要がある。また、高齢者との世代間交流や地域の方々とのかわりかかきも盛らねばならない。

通学合宿については、参加希望者を最大限参加できるように配慮し他校の児童との交流も考えて事業展開を図り、地域ボランティアの方々の積極的参加を呼び掛けることも重要である。

## 13. みさと天文台事業

目的：星を学習するという側面の活動だけでなく、紀美野町の財産のひとつである美しい星

空を楽しみ、心豊かな生活につながられるよう、子どもから大人までを対象にした幅広い活動をする。

内容：夜間の星空観察会だけでなく、日中でもイベントを定期的に行っており、天文教室等では、その時々のトピックスを取り上げる講演形式のものなど、様々なアプローチで星空や自然に触れるイベントを行った。昨年度の課題を踏まえ、国立天文台との連携の中で、国立天文台の研究者の方による講演会が毎年実施されるようになってきた。また、様々な天文現象の折には臨時に観察会を開催し、その時にしか見ることのできない現象を一人でも多くの方に提供できる機会を設けた。平成23年度は、とくに、平成24年5月21日の金環日食を控え、事前講習会と日食メガネ工作を集中的に実施した。一人でも多くの方が楽しく安全に日食の観察ができるように、町内全小中学校（7校）および地域サロン（28ヶ所）などへ赴いた。その他のイベントとも合わせると約1,800名の方々に受講していただいている。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：求められれば直に専門の先生が駆けつけて下さり、「天文教室」を設けていただけるので大変ありがたいです。特に平成23年度は、平成24年5月の金環日食に向けて積極的に活動されました。和歌山大学や国立天文台との連携という重要な任務を背負っていること、また本町を特色付ける天文台でもあることから、その人的物的資源を駆使しながら、意義や価値などを住民に分かりやすく広めていただきたいと思います。

課題・方向性：和歌山大学及び国立天文台との連携により情報交換が積極的に行われている。今後もより一層、積極的な情報交換や活動を行い天文台をアピールしなければならない。

#### 14. 文化センター事業

目的：心豊かな文化振興の実現を図り、町民の教養と文化性を高め豊かな感性を磨くために文化振興事業に取り組み専門性の高いホールを有効に活用する。

内容：三井住友海上文化財団派遣事業「地域住民のためのコンサート」天羽明恵・鈴木大介 ヴァイオリン&ギターデュオコンサート・自主事業 夏川りみコンサート・NHK公開録音 名曲リサイタルを実施した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：近隣地区にないレベルの高い音響設備の整ったホールを持っています。そのため、コンサートなどの催しに際しては、町内外だけでなく、他都市や他県からも参加されると聞いています。今後もさまざまな団体とも連携を取りながら、効率的な運営の在り方を考え、住民のニーズをもとに、一層文化振興のために尽くしていただきたいと思います。

また、文化センター隣接の「木の温もり広場」は、各種イベント会場として大いに活用されており、文化センターとの相乗効果で紀美野町のPRに大いに役立っていると思います。

課題・方向性：好評を頂いていますのでさらに住民のニーズに答えられる文化振興事業の取り組みとともに専門性の高いホールを有効に広域な活用にも努める。

有効な活用に努める。

## 15. 地域共育コミュニティ推進事業

目的：地域ぐるみで子どもを育てながら、大人も共に育ち、育て合うことができる地域社会づくりを目指して、学校・家庭・地域と連携を図っていく。

内容：全中学校区において地域共育コーディネーター5名の協力の下、定期的に交流会をもち、情報交換を行いながら、学校運営に地域の方々の参加を推進している。

また、児童生徒が地域の清掃やお祭り等に参加し、地域の担い手、地域の一員である認識を促すとともに、地域との交流活動に取り組んでいる。

町内の高等学校においても施設を地域に開放して交流の場にするため積極的に取り組んでいる。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：地域と学校、学校と保育所といった、従来は異質のコミュニティーに属していたものをこの事業で統合的に巻き込むことで、お互いにメリットのある新たなもの（つながりや連帯感）が生まれてきました。この事業では地域共育コーディネーターの方の役割が大きいと思います。学校や地域の現状を細かくとらえながら、より望ましい子どもの教育に還元しなくてはならないからです。さらに学校に対して敷居が高いと感じる意識が、この事業のおかげで随分改められたと思います。今後も、地域と各学校・保育所が連携を深め、より充実した取り組みになるよう補助支援をお願いします。

課題・方向性：学校と地域が密接に関わり、地域ぐるみで子どもを育てるという意識を持ってもらうことを目的に実施してきたこの事業も開始して4年目を迎えることとなった。今後は、学校と地域が創意工夫を凝らし補助金に頼ることなく共育コミュニティ事業を展開していくことが必要である。

## 16. パークゴルフ・ゲートゴルフ事業

目的：生涯を通じて生き生きとした充実のある生活を営む一つの方策としてスポーツを通じた活動を展開する。

内容：パークゴルフ

\*春大会（5月、参加者：129名）\*夏大会（7月、参加者：131名）

\*秋大会（11月、参加者：93名）\*チャンピオン大会（3月、参加者：133名）を開催した。

内容：ゲートゴルフ

\*県大会2回開催、（6月・11月、参加者合計：276名）\*チャンピオン大会（3月、参加者：72名）を開催した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：日常は中高年の方々を中心に多数楽しんでおられますが、時に三世代交流の場となっています。生き生きとパークゴルフを通して、その楽しさとともに互いに心を和ませていくことは、充実した生活を営むことに通じていると思います。大会事業も盛大であり、いっそう住民の参加を広げ、継続を図っていただきたいと思います。平成24年度から2015年に開催される紀の国和歌山国体のデモンストラーションスポーツとして、パーク・ゲート両ゴルフが認定されたことにより、関係大会等の開催や、新会員の獲得に期待します。

課題・方向性：後継者の育成及び活動の拡充対策が必要である。また、紀の国わかやま国体のデモンストレーションスポーツ競技として、普及啓発活動に努めていきたい。

ゲートゴルフ発祥地としての啓発活動と後継者の育成が必要である。

#### 17. ふれあいマラソン大会事業

目的：走ることをとおして、紀美野町の美しい自然や文化、そして人とふれあうことで、紀美野町を全国にPRすると共に、人々の健康増進と交流を図り、心身の健全育成と相互の親睦を推進する。

内容：アップダウンに富んだロードレースのクォーターマラソンとパークゴルフ場の芝生の上を走るクロスカントリーレース、また誰でも気軽に参加できるウォーキングを開催し、子どもから高齢者まで幅広く参加することができるため、町内はもちろんのこと町外、県外からも多くのエントリーがあり紀美野町を対外的にPRすることができた。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：単にマラソンの速さを競うだけでなく、本町の自然・文化などを県内外の参加者に体感してもらえ絶好の機会であると思います。特に、参加者が気軽にウォーキングできるという種目を設けていることは、参加する楽しみとともに健康づくりへの意識を高揚させていると思います。毎年大勢のボランティアの方にもお手伝いをいただいております、町内のスポーツ活動活性化の大きな推進事業として今後も継続していただきたいと思っております。

課題・方向性：多くの選手の参加やボランティアのお手伝いにより運営ボランティア意識の高揚と紀美野町のPR及び町外・県外の方々との交流をより一層深めたい。

#### 18. スポーツ少年団活動事業

目的：次の時代を担う青少年の健全育成を推進するため心身と体力の向上を図る。

内容：スポーツ少年団活動団体〔野球、バレーボール、剣道、サッカー、新体操、空手、少林寺拳法、バドミントン、陸上、バスケットボール〕が活発に活動できる支援と施設の充実に努めた。各少年団とも継続的な練習と熱心な指導もあって、各種大会で上位入賞や県大会、近畿大会、全国大会への出場があった。その中でも、野上少年野球クラブは全国大会ベスト16、美里スポーツ少年団は和歌山県大会優勝、美里少女バレーは近畿大会へ2度出場を果たした。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：少子化傾向の中で、スポーツ少年団各団体の数が多くなっていることは、子どもたちに、より一層対応を進めていることの現れでもあると思います。その中で、種目によって県大会や近畿大会などで良い成績を収められたことは、大きな成果であると思います。2015年の和歌山国体に向けて、ホッケー会場を持つ町として、ホッケー競技などに関心を集め、少年団の育成にも努力していただきたいと思っております。

課題・方向性：児童の減少による新入団生の確保に努めなければならない。

## 19. 市町村対抗ジュニア駅伝競走大会

目的：スポーツの振興と青少年の健全育成を図ると共に紀美野町の活性化に資する。

内容：指導者のもと8月初旬から放課後や土曜日・祝日に合同練習を開始し、各学校においても担当者の先生方に早朝や放課後に練習を行っていただいた。年末には小学生の選手選考を行い、チームを引っ張ってくれた。54回の合同練習と4回の試走、各マラソン大会への参加をし、ジュニア駅伝本番では2チームが出場し、Aチームは4年連続入賞、Bチームも28位という結果になった。

判定： 5 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：前年の夏休みから計画的に練習を取り入れたり、朝と放課後、あるいは土・日・祝日の合同練習に取り組んだりした結果、近年好成績を収めておられます。これは、子どもたち自身の頑張りもさることながら指導者の方々の尽力のおかげであると思います。他の子どもたちのマラソンに対する見方考え方を高め、後々自らの体力アップや健康増進のために生かされるものと期待します。

課題・方向性：今後、対象児童・生徒数が減少する中で出場選手の確保に努めなければならない。

## 20. スポーツ・レクリエーション大会

目的：町民相互の健康増進と親睦を図り、スポーツの発展と文化の向上に資する。

内容：スポーツ公園、農村総合センターにおいて、カローリング、ホッケー教室及びデモンストレーション試合、ゲートゴルフ・ソフトバレーボール・ペタンク・陸上競技を開催した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：日ごろは勤務している大人の方にとって、この大会は自らの健康増進に活かせるだけでなく、参加者との心からの交流が図られています。陸上競技など種目数も増え、参加しやすくなっていると思います。町民相互の親睦を深めると共に、健康増進を図る事業で町民も楽しんで意欲的に参加していると思います。今後もより多くの町民が参加できるような種目の検討をしつつ、継続していただきたいと思います。

課題・方向性：陸上競技を取り入れたことによって、子どもの参加が増えたが、今後も若い世代の方に多く参加してもらえよう取り組んでいきたい。

## 21. ナイター走ろう会

目的：町民のスポーツの振興、青少年の健全育成と体力の向上を目指す。

内容：スポーツ公園において7月・8月・9月と合計3回実施し、種目は100m、1000m、2000m、3000m、5000mと5種目行い好評であった。また、空き時間を利用してホッケー体験教室を人工芝グラウンドにおいて開催した。

判定： 4 今後の方向性：継続

評価委員の意見：近年はジョギングやマラソンがブームになっています。夜間に路上をジョギングする姿を目にすることも多くなりました。日中は参加できない人も夜涼しくなってきたらと走ってみたくなると思います。この会ではコースの見直しや記録証の導

入などの工夫をして効果を上げておられます。より一層誰でも気軽に参加できる体制を整え、それぞれが自らの体力作りに励むとともに、互いに交流をも深められるように工夫をお願いします。

課題・方向性：コース、記録証発行等の見直しを行い、スムーズに実施することができたので、今後も実施していきたい。

## 22. ホッケー推進事業

目的：2015年に和歌山県において国民体育大会が開催され、紀美野町スポーツ公園人工芝グラウンドがホッケー競技のメイン会場となることから、決定していることから、町民にホッケーに親しむ機会づくりと普及を図っていく。

内容：ナイター走ろう会、スポーツレクリエーション大会開催日に体験教室を行った。海南高校大成校舎ホッケー部への支援と同ホッケー部の活動に小学校との交流、教室の場を作ってもらった。また、当地の人工芝グラウンドが県高校ホッケー協会の協力のもと近畿高校ホッケー選手権大会の会場となり、町民への啓発の一つとなった。

判定： 2 今後の方向性： 拡大

評価委員の意見：和歌山県内では本町と日高の2箇所しかホッケーのコートがなく、貴重な存在です。

2015年の国体では本町のグラウンドがホッケー競技の会場になります。全国から集まってくる選手のためにも、今後とも様々な機会を通じて体験教室を開いたり、広報活動を行ったりして広く盛り上げるようにしていただきたいと思います。

課題・方向性：ホッケーは、まだまだ人々の身近なスポーツとして浸透していないため興味を示す方向づくりを模索し、サークルが発足できる環境を推進していく。

## 23. 町広報誌「ふれあいネット」

目的：生涯学習の取り組みやできごとなどを町民に広く広報する。

内容：毎月その時の文化事業やスポーツ事業に関するイベントの案内や生涯学習関係のトピックスやお知らせ等を「広報きみの」へ掲載する。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：紙数が限られているので苦労されていると思いますが、それぞれの活動の様子が掲げられていて分かりやすいです。また、紀美野町の生涯学習・社会教育の特色、「紀美野町の歴史と文化」などの特色が報じられて興味深いと思います。「学校だより」もその学校の取り組みの一端が窺われて楽しみです。町民の大半はこの「ふれあいネット」によって各団体の活動ぶりを知ることになると思いますので、引き続き充実した内容を期待します。

課題・方向性：掲載する内容を吟味しながら今後も取り組んでいきたい。